

創刊号

黒田大明神原 B 遺跡 通信

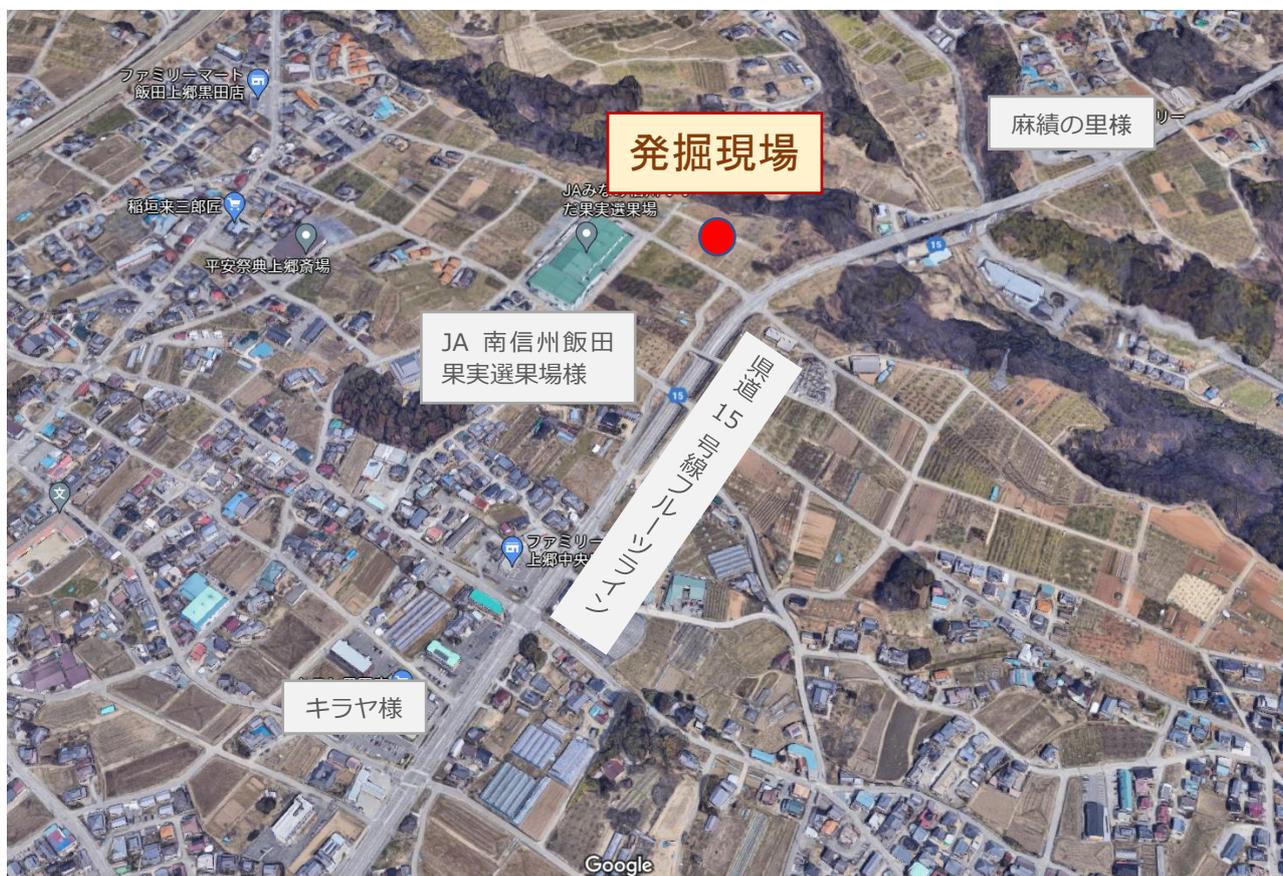
2021 年 10 月 5 日発行

◆遺跡の発掘調査が始まります

中央自動車道の座光寺スマートインターから県道 15 号線（通称フルーツライン）に接続する道路の建設*にさきだって、黒田大明神原（くろだのみょうじんばら）B 遺跡の発掘調査を実施します。調査期間は、9 月 21 日（火）から 11 月 30 日（火）までを予定しています。おとなりでは、飯田市教育委員会文化財保護活用課のみなさんも調査を行っています。期間中、大型重機をはじめ、車両が出入りしますので、ご注意ください。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



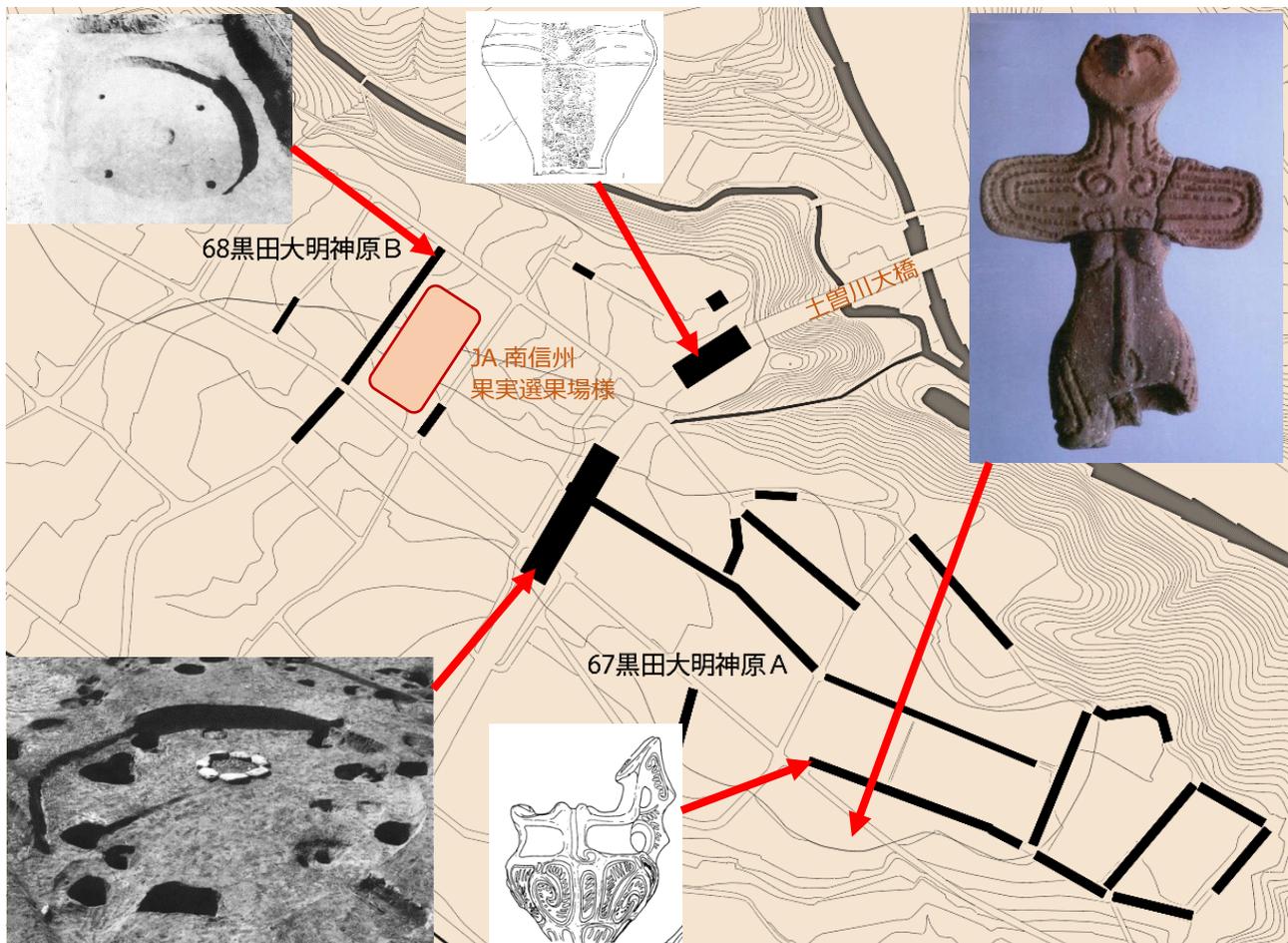
遺跡近景（北西から撮影）手前の草が黒田大明神原 B 遺跡。奥の丘の上が黒田大明神原 A 遺跡。



* 詳しくは飯田建設事務所のHPから「事業概要」→「リニア関連道路整備」をご覧ください。

◆黒田大明神原遺跡って、なに？

黒田大明神原遺跡は、おそくとも大正時代には縄文時代や弥生時代の土器のカケラが拾える場所として知られていたようです。戦後まもなく、西から東に延びる台地の南東端で壁土を採取していた時に、両腕を広げた土偶がみつかっています。1980年代の農道拡幅工事に伴い、縄文時代や平安時代の竪穴建物跡や弥生時代のお墓の跡などが初めて発掘されました。さらに、1990年代に入ると、県道15号バイパス新設工事などに伴う発掘で、縄文時代を中心に弥生時代や古墳時代の集落跡を確認することができました。計8回の発掘調査の結果、今から約11,000年も前の縄文人たちの暮らしの跡が残るB遺跡と、およそ5,000年前に大きな集落を営んだA遺跡が、中央の窪地をはさんで北西と南東に立地し、双方に、弥生時代以降、平安時代まで人びとが断続的に住まいや墓をつくっていたことがわかっています。今回は、どんな発見があるか、楽しみです。



写真は左上から時計回りに、縄文時代の中期後半の竪穴建物跡、前期終末の深鉢形土器、中期後半の土偶、中期後半の深鉢形土器、中期中ごろの竪穴建物跡



マスコットのがみちゃんです。短い期間ですが、どうぞよろしくお願ひします

長野県埋蔵文化財センター飯田支所
発掘現場担当：平林 彰/鈴木時夫
現場携帯電話：080-1320-0216
埋文公式ホームページ：

<http://naganomaibun.or.jp>